

激動の世界を  
読む

# 北東アジアの大変動 時代の壁が崩れる瞬間

いおきべ まこと  
五百旗頭 真  
(アジア調査会会長)

変わるはずがないと思われた強固な時代の壁が見る間に崩れて、新しい情景が広がっていく。そうした歴史にそうそう人は居合わせられるものではない。年配の人々にとって、約30年前の冷戦終結はそうした地球大変動の時であった。今、北東アジアの地に、同様の瞬間が出現しつつある。

## 平昌五輪以後の鮮烈な外交戦略

つい昨年末まで、米朝間には戦争すら危惧された。北朝鮮は核とミサイルの実験を繰り返し、それを隠すので

はなく、韓国や日本のみならず米国すら破壊できると声高に威嚇した。対するトランプ大統領は、米国の圧倒的な軍事力で圧力をかけ、国連による世界的な経済制裁を強化した。もともと北朝鮮に対する経済制裁を望まなかった中国やロシアすら、北朝鮮の度重なる挑発を前に全面制裁に同意した。圧力と制裁を強化して、北朝鮮に非核化を迫るのが、トランプ氏の方策であり、北朝鮮は本年を迎えて経済的に締め上げられる流れとなった。

北朝鮮は中ソ両国の後ろ盾を冷戦終結期に失い、国家存立の命綱として核開発に力を注いだ。核を開発したと



署名後、共同声明の文書を掲げるトランプ米大統領（右）と金正恩朝鮮労働党委員長＝シンガポール・カペラホテルで12日、AP

て、それを使うことは自殺行為であるが、核とミサイルの能力によって、米国を振り向かせ、核保有を前提に名譽ある関係に入りたい。実際に使う武器というよりも、政治的な「核ミサイル・カード」である。

北朝鮮の政策転換を予想していた専門家もいる。たとえ小此木政夫・慶応大名譽教授は、北朝鮮は核とミサイルの開発に成功したので、これ以上の実験は行わないと、ある時点で凍結宣言を自ら行い、中国、ロシア、そして韓国の理解を得ようとするだろうと、昨年中に語っていた。

ただ北朝鮮の転換はワンポイント遅かったと、私は思う。国連安保理が全会一致で厳格な制裁決議に至る前に転換していれば、いわば国際的犯罪国としてすべての貿易と人的移動を制約される事態を免れたであろう。だが、後のないところでの転換だけに、平昌オリンピック以後の金正恩委員長長の国際復帰戦略は鮮烈なものとなった。南北融和を切望する韓国の文在寅大統領を引き寄せ、米国内の仲介者とした。再度訪中して対米首脳会谈への形を整えた。「韓国カード」と「中国カード」を手にしてトランプ氏に向かう。見事な外交力といえよう。

### 地域の安定に日本の知恵を

さて、トランプ氏は既成の米国政治家と異なるタイプ



五百旗頭 真 (いおきべ・まこと)

1943年生まれ。京都大大学院修了。法学博士。専攻は日本政治外交史。米ハーバード大客員研究員、神戸大教授、防衛大学校長、熊本県立大理事長を経て、今年4月から兵庫県立大理事長。この間、東日本大震災に伴う政府の復興構想会議議長などを歴任。アジア・太平洋賞選考委員長。

の人物である。それゆえの強さと危うさが、米朝首脳会談のプロセスにも示された。金氏の米朝首脳会談の申し出を、他の大統領であればあれほどあっさりを受け、短期間で実施に至らないであろう。また北朝鮮側がボルトン大統領補佐官やベンス副大統領を忌避する術策を弄し始めた時に「会談中止」を宣言して北朝鮮を押し返したのはトランプ氏ならではであろう。

残念ながら、この契機をとりえて米国は北朝鮮にCVID（完全かつ検証可能で不可逆的な非核化）をのませることに成功しなかった。首脳会談後の共同声明Ⅱ1Ⅱは、米国が「安全の保証」を北朝鮮に約束したのに対し、北朝鮮が「朝鮮半島の完全な非核化に向けた確かで揺るぎない決

意を再確認した」にとどまる。自らの管轄していない半島南部を含めた非核化の決意とは何を意味するのであるうか。

金氏はどこまで覚悟しているのか。専門家のうちには金氏が文字通り非核化を実施し、核と経済開発の並進路線Ⅱ2Ⅱから経済発展専心路線に帰着すると読む人もいる。それが北朝鮮にとって望ましく、合理的な道であるから。

それは敗戦に伴う戦後日本の方途ではあったが、鄧小平の下で改革開放を行った中国は経済成長の上に大軍拡を乗せた。軍事と経済を両輪とする総合国力論である。北朝鮮は命綱と信じて營々と開発してきた核とミサイルを潔く捨てるであろうか。それは北朝鮮にとって万やむを得ない事態における最後の選択であろう。「完全な非核化」に同意した後の各論においても、驚くべきねばり強さを示すのが北朝鮮外交である。

トランプ氏は、CVIDを取りつけることなく、金氏に安全の保証を与えただけでなく、「圧力」の主軸である米韓合同軍事演習の中止を約束した。金氏にとって夢のような成果である。金氏を温かく包摂して「完全な非核化」を実施させたいトランプ氏であろうが、査察や期限の同意を早期に取りつけねば難しくなる一方となる。米国を本気で怒らせないよう非核化へのステップをそれなり

に刻みながら、完全な非核化を回避する金氏のゲームが展開されることとなる。軍事決着なき交渉では、一方が拒否する限り、合意はない。北朝鮮の非核化ではなく無害化が次なる課題となるのか。

北朝鮮は、金丸訪朝団と小泉純一郎首相訪朝の際に日本を求めた。小さくない経済協力が予期されるからである。先代の金正日総書記は、すでに拉致を認め謝罪した。後は一人一人を大切にして、事実をすべて出す覚悟だけである。それは痛みを伴うが、経済建設を最優先する金正恩氏にとって、1兆円を下らない日本の協力は必要である。詰めの交渉を日本政府が誤らないようお願いしたい。

#### ◇米朝首脳会談

史上初の米朝首脳会談でトランプ米大統領が北朝鮮に体制の保証を与え、北朝鮮の金正恩（キムジョンウン）朝鮮労働党委員長は朝鮮半島の「完全な非核化」を約束した。だが非核化実現の期限や具体策は示されず、今後の米朝間の折衝は予断を許さない。米朝会談で金氏は、安倍晋三首相との日朝会談を排除しない姿勢も示していた。非核化をめぐる米朝間の政策転換は本物か。流動化する北東アジア情勢に日本はどう対処すべきだろうか。

緊張が緩む大きな流れは望ましい。が、この地の安定にはまだまだ多くの労苦と知恵を要するであろう。

#### ■ことは

##### ◇1 米朝共同声明骨子談

正恩委員長は朝鮮半島の完全非核化への約束を再確認  
▽トランプ大統領は北朝鮮に安全の保証を提供すると約束  
東▽米朝は朝鮮半島で持続的な平和体制を構築するため努力

▽会談は何十年に及ぶ緊張と敵対行為を克服するための画期的な出来事▽会談結果を履行するためさらなる交渉を開催▽朝鮮戦争の戦没米兵の遺骨収集で協力を約束。

##### ◇2 金正恩氏の並進路線

金氏は2013年3月に並進路線を大戦略として掲げた。同年4月の「党中央委員会総会での報告」において、金氏は「強盛国家を建設するための戦略的路線として、経済建設と核武力建設を並進させる新たな戦略的路線を提示する」「核武力は信頼できる戦争抑止力であり、民族の自主権を守る保証となる。米国が我々に恒常的に核の威嚇を与える状況にあつては核武力を質・量的にしっかりと打ち固めなければならない」と述べた。